様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １６ 日現在

機関番号：２２７０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ００７６６

研究課題名（和文）英語による専門科目との接続を可能とする英語カリキュラムの構築とWEB教材の開発

研究課題名（英文）Construction of an English Curriculum to Connect with EMI Courses and Development of its WEB Materials

研究代表者
加藤　千博（Kato, Chihiro）

横浜市立大学・国際教養学部（教養学系）・教授

研究者番号：２０６３８２３３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、大学初年次生対象の英語授業と大学2、3年次生対象の英語による専門科目（EMI）をスムーズに結びつけるための英語カリキュラムを構築し、そのために有用となるWEB教材を開発することを目的とした。はじめに、旧JACET8000に基づく英語基礎力測定「RLGテスト」が新JACET8000にも対応するかどうかを検証した。次に、とあるEMIクラスにおける受講者レベルと教材レベルの比較分析を主に語彙に焦点を当てて行い、5,000～6,000語レベルの語彙増強がこのEMIクラスの学生には必要であることが明らかとなった。WEB教材に関しては、中学生レベルの基礎的な語彙教材を作成しHP上で公開をした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
英語基礎力診断「RLGテスト」が新JACET8000にも対応することが明らかとなり、学習者の英語レベルを判定する簡易テストとして様々な教育現場で利用可能となった。このテストを用いることにより、小・中・高・大の教員が各自のクラスや生徒の英語基礎力を個別に把握したうえで授業を進めることができるようになる。大学でのEMIクラスでは、受講者の英語力がそのクラスの専門科目を学ぶレベルにまでは達していないことがデータにより示され、CLILの教授法をEMIクラスに採り入れることが有効であることが明らかとなり、EMIクラス担当教員への示唆となった。作成されたWEB教材は小・中の教員にも有用なものとなっている。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to construct an English curriculum which smoothly connects university freshmen's English classes with second- and third- year students' special subjects (EMI) taught in English, and to develop useful web-based teaching materials for that curriculum. First, we verified whether the RLG test, a basic English ability test based on the old JACET 8000 list, would also be compatible with the new JACET 8000 list. Next, by analyzing students' English level and their text level in an EMI class, focusing primarily on vocabulary, it was revealed that they needed vocabulary building at the level of 5,000 to 6,000 word level. As to web-based materials, a basic vocabulary program -reading and listening vocabulary- at the junior high school level was created, which is now available on the website.

研究分野：英語教育

キーワード：英語教育　英語基礎力測定　EMI　CLIL　WEB教材

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

英語を媒介とする専門科目（EMI）への需要が増加する一方で、受講者の英語力がその科目を理解するに足りていない状況が生じていた。そのような状況は、英語授業で獲得した語学力と英語による専門科目を受講するために必要とされる語学力にギャップが生じていることに起因すると思われる。EMI の授業は通常、語学教育の素養のある教員が行うのではなく、その分野の専門家である英語の流暢な日本人教員もしくは外国人教員が行うため、学生の語学レベルに配慮した授業は行われない。よって、語学力の劣る日本人学生の多くは、この EMI の授業には英語の運用力の問題でついていくことができない。結果、日本の EMI クラスでは本来の目的から外れた形でのクラス運営を強いられることが多く、日本人学生、留学生、そして大学側にとってもメリットが薄れてしまっていた。

２．研究の目的

本研究の目的は、大学初年次生対象の英語授業と大学 2、3 年次生対象の英語による専門科目（EMI）をスムーズに結びつけるための英語カリキュラムを構築し、 そのために有用となる WEB 教材を開発することである。本研究で期待される成果は、英語による専門科目（EMI）を受講する学生にも教える教員にとっても有益な教材を提供することである。この教材を用いて自主学習をしたり、授業用の教材として利用したりできるようになる。また英語学習と教科科目を融合した効果的な指導方法を、大学のみならず、英語教育に不慣れな小学校教員にも提案することができるようになる。

３．研究の方法

本研究では、我々の開発した「英語基礎力自己診断ツール」を利用して、英語による専門科目を受講しようとする学生側の英語力、モチベーション、学ぼうとする専門領域に必要な英語力を分析する。１年目は、研究のプラットホームとして使用予定の「RLG テスト」（R：リーディング語彙、L：リスニング語彙、G：基礎文法）と呼ばれる英語基礎力測定テストを改良し信頼性を検証する。同時に、内容統合型学習（CLIL）の理論を学び、その実践例と教材を調査する。２年目は、英語基礎力診断テスト（RLG テスト）を用いて、EMI クラスで必要とされる英語力の調査を行う。３年目は、英語クラスと EMI クラスをスムーズに接続する包括的な英語カリキュラムの構築と WEB 教材の開発を行う。

４．研究成果

１年目は、RLG テストの新しいバージョンを作成し、旧 JACET8000 に基づいて作成されていた RLG テストが新 JACET8000 にも対応するかどうかを検証し、問題ないことが明らかとなった。また、オーストラリアで CLIL 研究の第一人者であるメルボルン大学の Russell Cross 氏から CLIL の理論について教授を受け、オーストラリアにおける CLIL 研究の動向と教育実践の導入例を学ぶことができた。同時に、CLIL の理論に基づき英語と日本語のバイリンガル教育を実施しているハンチングデール小学校を訪問し、授業参観を通じて CLIL の実践例を学び、日本の英語教育における CLIL 導入の方法論について検討を行うことができた。このオーストラリアでの現地調査（CLIL 実践校の訪問）で得られた知見は論文で発表をした。２年目は、900 名程の英語基礎力テスト（RLG テスト）のデータを得ることができたが、コロナ禍の影響で TOEFL や TOEIC の外部試験の中止が相次ぎ、英語基礎力とそれらの外部試験のスコアとの相関を得ることができなかったため、学習者の傾向を分析することができなかった。３年目は、英語基礎力テスト（RLG テスト）により 600 名程の大学初年次生のデータを得ることができたが、同時期に実施された TOEFL-ITP のスコアデータと比較した結果、TOEFL-ITP のスコアが非常に高く算出されていることが判明した。英語基礎力は例年の学生の傾向と変わらない一方で、英語運用力を測る TOEFL-ITP で高いスコアを得られている現象の理由を考察した。コロナ禍により TOEFL や TOEIC の受験者の母集団に変化があったため、通常期とは異なるスコアが算出された可能性があり、この時期のデータは学生の英語力を忠実には反映できておらず、信頼のおけるデータとはなり得ないことが判明した。４年目は、一つの EMI クラスから受講者の英語基礎力と外部スコア（TOEFL）のデータを得ることができたため、受講者レベルと教材レベルの比較分析を、主に語彙に焦点を当てて行った。結果、5,000 語から 6,000 語レベルの語彙増強が多くの学生（大学 2、3 年生）で必要であることが明らかとなった。このことから、大学での多くの EMI クラスでは、受講者の英語力がそのクラスの専門科目を学ぶレベルにまでは達していないことが推測され、CLIL の教授法を EMI クラスに採り入れることが有効であるとの結論に至った。これは EMI クラスを担当する大学教員への示唆となり得る。WEB 教材に関しては、EMI クラス用の教材を作成するまでには至らなかったが、中学生レベル（1,500 語レベル）の基礎的な語彙（リーディング語彙、リスニング語彙）教材を作成しホームページ上で公開をし、小・中学校の教員にも自由に使ってもらえ

るようにした。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 田島祐規子	４．巻 7
２．論文標題 自立した英語の書き手を目指すライティング指導の工夫：自己添削活動を促すライティング授業への取り組み	５．発行年 2020年
３．雑誌名 ときわの杜論叢	６．最初と最後の頁 70‐86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 工藤泰三	４．巻 32（2）
２．論文標題 メルボルンの小学校訪問を通して見るビクトリア州における内容言語統合型学習（CLIL）の展開	５．発行年 2020年
３．雑誌名 名古屋学院大学論集　言語・文化篇	６．最初と最後の頁 117-131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 加藤千博	４．巻 51
２．論文標題 トマス・モア『ユートピア』におけるエコロジー要素：ユートピア文学のレトリック	５．発行年 2021年
３．雑誌名 英米文化	６．最初と最後の頁 51‐35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 加藤千博
２．発表標題 カズオ・イシグロのエコロジー観－『わたしを離さないで』に暗示される長崎の風景－
３．学会等名 Japanese Studies研究会（メルボルン大学）
４．発表年 2020年

１．発表者名 加藤千博，村上嘉代子，工藤泰三，田島祐規子，大場昌也
２．発表標題 英語基礎力診断「RLGテスト」について－中・高の教育現場での活用を目指して－
３．学会等名 横浜国立大学英語教育学会
４．発表年 2023年

〔図書〕　計2件

１．著者名 Dave Rear, Kayoko Murakami	４．発行年 2020年
２．出版社 南雲堂	５．総ページ数 72
３．書名 私たちと科学の世界：過去から未来へ	

１．著者名 柏木賀津子、伊藤由紀子、工藤泰三	４．発行年 2020年
２．出版社 明治図書出版	５．総ページ数 120
３．書名 とっておき！魅せる！英語授業プラン　：思考プロセスを重視する[中学校・高校]CLILの実践 教科の学習内容を深め、英語力を磨く指導法	

〔産業財産権〕

〔その他〕

RLG研究会（英語教育）
http://rlgtest-english.com/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	前川　浩子 (Maekawa Hiroko) (10434474)	金沢学院大学・文学部・教授 (33305)	
研究分担者	工藤　泰三 (Kudo Taizo) (60734209)	名古屋学院大学・国際文化学部・准教授 (33912)	
研究分担者	田島　祐規子 (Tashima Yukiko) (70377117)	横浜国立大学・国際戦略推進機構・非常勤教員 (12701)	
研究分担者	村上　嘉代子（平野嘉代子） (Murakami Kayoko) (90424895)	芝浦工業大学・工学部・教授 (32619)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関